

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年12月 日

資料 1 - 2 - 1

協議会名： 蒲郡市地域公共交通会議
評価対象事業名： 地域内フィーダー系統

①補助対象事業者等	②事業概要		③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名 等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名・運行(航)区間、整備内容等 を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両 減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫 補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保 維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討 の経費を除く。))を受けている場合は、その旨記載】		【事業評価の評価対象期間に おいて、前回の事業評価結果 をどのように生活交通確保維 持改善計画に反映させた上で 事業を実施したかを記載】	A・ B・ C 評価	A・ B・ C 評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ご とに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上 記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策 は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて 広く記載。特に、評価結果を生きた交通確保維持改善計画に どのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記 載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
豊鉄タクシー株式会社	「あじさい地く区る支り線んバス」	左回りルートA (ユトリナ経由なし)	前回の二次評価では、 ・1運行当たりの輸送量が2人未満の系統に関して、地域の住民と意見交換をおこない、利用ニーズの深掘りや周知、利用促進に向けた対策を行うこと ・鉄道や路線バス等について、利用者数の回復や新規利用者の創出に向け、関係者と連携し、乗り継ぎ利用も含めた利用促進等に係る検討や取組を進めること ・待合環境の向上について、好事例のPR等を図りながら、地域との協働・共創による利用環境整備が進むことが期待されている。	A	計画通り事業は適切に実施できている。	【達成状況】 目標：年間利用者5,700人 実績：6,480人 【理由等】 R6年度の利用者数は、過去最高値を記録し、目標を達成した。運行が増えた曜日の利用も定着が進んだことで、便あたり利用者数についても増加後の減少から元通り回復した。 本路線は、名鉄蒲郡線の2駅に接続して広域の移動支援につながるとともに、地域内の病院・買物・公共施設等へのお出かけに日常的に利用されているため、地域住民の欠かせない移動手段になっている。	
		左回りルートB (ユトリナ経由あり)					
		右回りルートA					
豊鉄タクシー株式会社	「と東部地区く区る支り線んバス」	駅・病院先発ルート	・東部地区、大塚地区においては、運行日増加が契機として、1運行当たりの輸送量が概ね2人の水準となった。また、各地区協議会を継続的に開催し、実績や意見を共有した。会議では他地区との接続や地区外への停留所設置等の意見が多く、地域での利用促進の取組みがなかなか進まない。まずは新規利用者を増やすためにも、周知を地域の住民と進めていく。 ・鉄道については、名鉄西蒲駅において、鉄道、路線バス、支線バスの拠点となるべく待合所を新設した。また、事業者及び西尾市とともに、各種利用促進イベントを行い、新規利用者の創出にも取り組んだ。路線バスについては、出前講座として、支線バスとの使い分けについても触れて乗り方講座を実施した。加えて、イベントでの体験乗車や制服着用体験などのPR事業も事業者の協力を得て実施した。	A	計画通り事業は適切に実施できている。	【達成状況】 目標：年間利用者1,950人 実績：2,802人 【理由等】 R6年度の利用者数は、過去最高値を記録し、目標を達成した。R5/4に週4日運行にサービス強化したことを受けて、大きく利用者を増やしている。直近では、便あたり利用者数も2人を超える水準となっている。本路線は、JR東海道本線に接続して広域の移動支援につながるとともに、地域内の病院・買物・公共施設等へのお出かけに日常的に利用されているため、地域住民の欠かせない移動手段になっている。	・継続してモニタリングを実施し、停留所ごとの乗降者数の評価による議論を行い利便性向上につなげるなど、PDCAの実施による適正運行を進める。
		左回りルート					
		右回りルート					
豊鉄タクシー株式会社	「み西部の地区く区る支り線んバス」	左回りルート	・空白地対策として塩津地区での新規事業化を進め、支線バスネットワーク網を完成させるとともに、新規路線の周知にあたり、既存路線についてもPRを強化する。併せて、路線バスについても、フィーダーとの使い分けや乗り継ぎ利用などのPRを実施し、利用促進を図る。	A	計画通り事業は適切に実施できている。	【達成状況】 目標：年間利用者1,700人 実績：1,800人 【理由等】 R6年度の利用者数は、過去最高値を記録し、目標を達成した。R5/4に週4日運行にサービス強化し、利用者数が増えているが、他の地区と比べて便当たり利用者数の増加がない状況。新規利用者の増加が課題と考えられる。 本路線は、JR東海道本線に接続して広域の移動支援につながるとともに、地域内の病院・買物・公共施設等へのお出かけに日常的に利用されているため、地域住民の欠かせない移動手段になっている。	・週4日運行となつてから、利用者数の増加だけでなく1運行あたりの輸送量も増加傾向にあることから、好循環を継続するためにも公民館だよりや回覧板による地域に密着した情報発信を進めるとともに、広告収入の獲得強化についても進める。
		右回りルート					
豊鉄タクシー株式会社	「お三谷地く区る支り線んバス」	公民館・三谷駅北口始発ルート (三谷公民館発)	ほか、以下取り組みを進めた。 ・公共交通マップ(R6/4版)を作成・配布し、利用PRを実施。公民館だよりでの報告やぬりえ大会の実施等による周知活動を継続実施。 ・東三河地域で連携した公共交通利用促進活動(主にバス)の継続実施。	A	計画通り事業は適切に実施できている。	【達成状況】 目標：利用者3,300人 実績：3,833人 【理由等】 R6年度の利用者数は、過去最高値を記録し、目標を達成した。R5/4に週4日運行にサービス強化し、運行日増加による便あたり利用者数の減少もなく、大きく利用者数を増やしている。 本路線は、JR東海道本線に接続して広域の移動支援につながるとともに、地域内の病院・買物・公共施設等へのお出かけに日常的に利用されているため、地域住民の欠かせない移動手段になっている。	
		西回りルート (三谷駅北口発)					
		東回りルート					
豊鉄タクシー株式会社	「ひ大塚地く区る支り線んバス」	左回りルート		A	計画通り事業は適切に実施できている。	【達成状況】 目標：利用者1,900人 実績：2,557人 【理由等】 R6年度の利用者数は、過去最高値を記録し、目標を達成した。R5/4に週4日運行にサービス強化し、利用者数が増えている。直近では、便あたり利用者数も2人に届く水準となっている。 本路線は、JR東海道本線に接続して広域の移動支援につながるとともに、地域内の病院・買物・公共施設等へのお出かけに日常的に利用されているため、地域住民の欠かせない移動手段になっている。	
		右回りルート					
事業全体の改善点					事業全体の改善点		さらなる利用者増加に向け、補助要件が1運行あたりの輸送量2人以上であることをすべての地区で共有することで、各地区でさらなる周知・利用促進の必要性を認識してもらい、主体的な地域独自の取組みを促す。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年12月 日

協議会名：	蒲郡市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	第五次蒲郡市総合計画においてあげられた「子どもや高齢者らが安心して移動することのできる公共交通体系の確立」、「地域で創り、守り、育てあげる持続性の高い公共交通体系の形成」を目指し、公共交通体系を一体的に改善することを目標とした地域公共交通計画を令和3年6月に策定した。当該計画の将来像等は、平成28年3月に策定した前地域公共交通網形成計画を踏襲し、交通ネットワーク網の維持・拡充を進めている。 計画の中で位置付ける取り組みとして、「鉄道を中心とした交通ネットワーク網の維持確保と交通空白地の解消」、「関係者間の連携強化による事業推進」を基本的な方針として掲げ、地域内フィーダー系統に関する計画の目標としては、「住民のニーズをふまえた公共交通ネットワーク網の維持拡充」「交通空白地解消のために導入した支線バスの適正な運行管理」等を設定している。 これら地域交通計画で定めた将来像・基本的な方針・計画の目標(施策事業)を通して、地域公共確保維持改善事業の支援を受けて、「交通空白地解消のための支線バス(フィーダー)」の運行を進める。

令和 6 年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

蒲郡市地域公共交通会議 (蒲郡市)

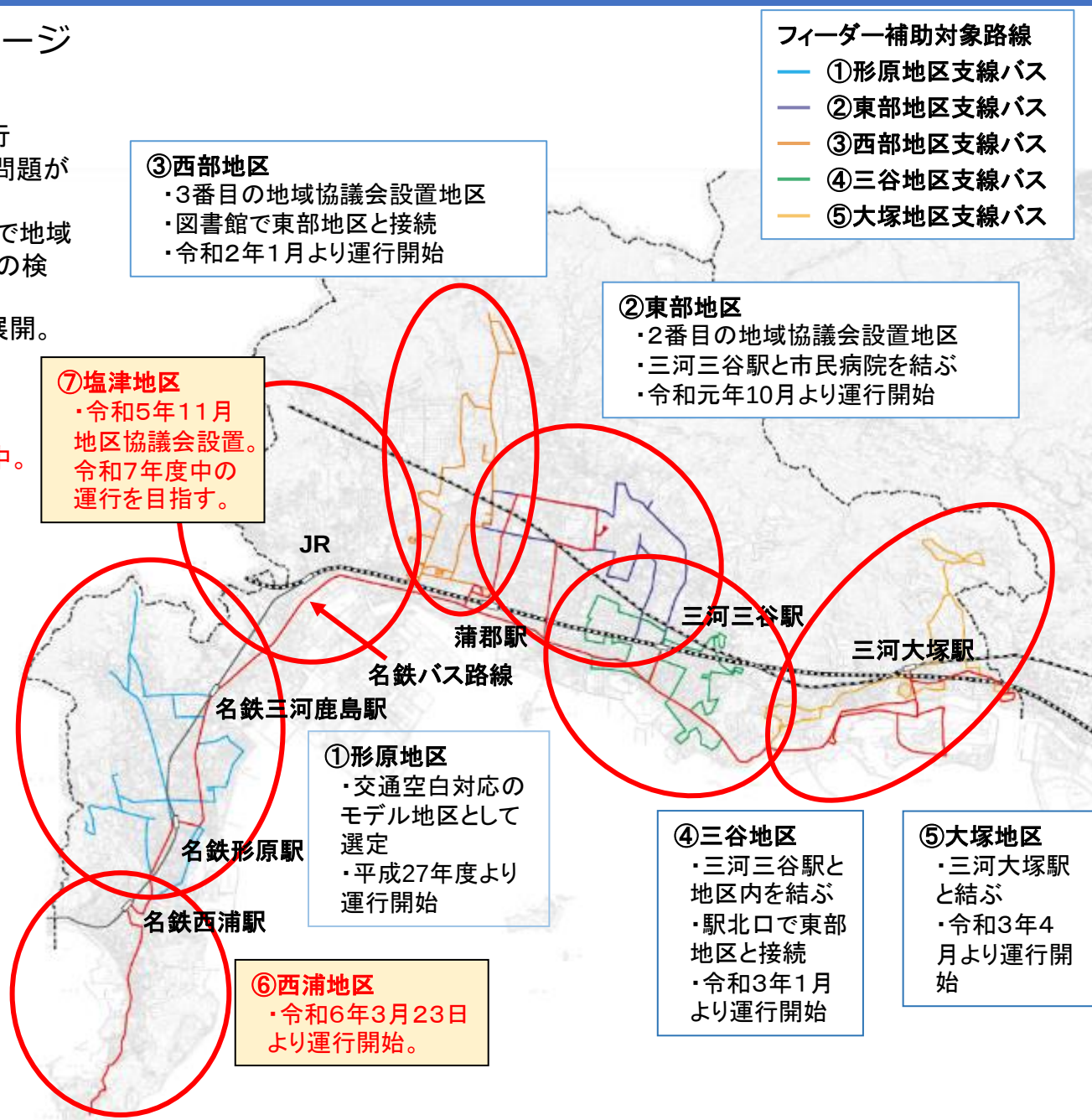
平成 2 5 年 3 月 1 日設置

令和 3 年 6 月 蒲郡市地域公共交通計画策定
(計画期間：令和 3 年 6 月～令和 8 年 3 月)

令和 6 年 3 月 蒲郡市地域公共交通計画改定
(計画期間：～令和 8 年 3 月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業

- ・ 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金



2.【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

■目標を達成するために行う事業

計画の主な目標	主な事業
交通ネットワーク網の維持確保・交通空白地解消	にしがま線（名鉄西尾線・蒲郡線）げんき戦略の推進、地域主導による地元協議組織の組成（形原・東部・西部・三谷・大塚・西浦・塩津地区）等
関係者間の連携強化	名鉄西尾・蒲郡線に関する西尾市・名鉄との三者連携合意に基づく共同イベント開催。東三河全体で、公共交通利用促進イベント実施 等
持続性ある公共交通の確保	バスの乗り方教室、イベントでのバスPR・乗車体験、広告収入の確保、オープンデータ化（GTFS-JP）対応 等

■実施してきた主な取組

 名鉄西尾・蒲郡線
（市民まるとと赤い電車応援団等）

1) 利用促進活動

- ・西浦駅待合所の設置・オープニング式典（R6/3）西浦地区支線バス出発式同時開催約150名
- ・名鉄でんしゃまつり（R6/5）活性化協議会ブース約1,000名
- ・復刻塗装列車発車式（R6/7）貸切列車乗車約250名

 路線バス

1) P R 活動

- ・出前講座@小江公民館（R5/11、約20名）
- ・PRブース、制服着用体験等の実施（待合所オープニング（R6/5）、蒲郡まつり（R6/7）等）
- ・東三河小学生50円バス・ポスター作品等募集（R6/7-11）50円バス利用者8,822人（R6/7-8）



 支線バス（新規実施）

- 1) 形原地区：ぬりえ大会の開催
- 令和5年10月30日、形原中学校にて
 - 形原3保育園：38名
 - 形原公民館にぬりえ作品を展示
 - コミバスを知ってもらう、触れてもらう機会としてぬりえ大会を開催。
- 2) 小江公民館での出前講座の実施
- 令和5年11月16日開催（約20名）
 - 路線バスと併せて実施。乗り方や路線バスとコミバスの使い分け例について周知できた。
- 3) 支線バスの運行協議（塩津地区）
- 塩津地区公共交通協議会（R5/11/22設立）
令和7年度中の運行開始に向けて協議中
 - 鉄道駅2か所（三河塩津駅・蒲郡競艇場前駅、三河鹿島駅）に接続予定
 - ルート、ダイヤ案を設計し、協議会として運行計画案を策定。
- 4) 形原地区利用促進事業：年間5千人達成
- 令和6年2月6日、地区協議会による達成イベント、記念品授与の実施。
 - 協議会での目標の共有及び地域へのPRの機会となっている。次年度は6千人を目標予定。

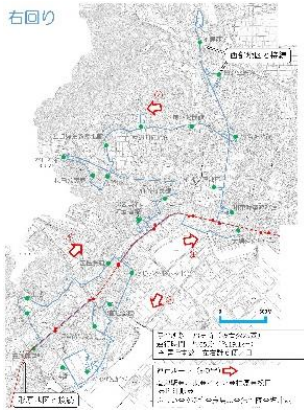
形原地区：ぬりえ大会（R5/10/30）



小江公民館での出前講座の実施



支線バスの運行協議（塩津地区）



形原地区：5千人達成式典（R6.2.6）



支線バス（新規実施：続き）

5）西浦地区支線バス出発式（約 1 5 0 名）

- 市内 6 地区目のコミュニティバスとして、令和 6 年 3 月 2 3 日の運行開始に合わせて出発式を開催。
- 名鉄西浦駅にて、西浦駅待合所オープニング式典と同時開催。より多くの地域住民等に P R できた。

西浦地区支線バス出発式（R6/3/23）

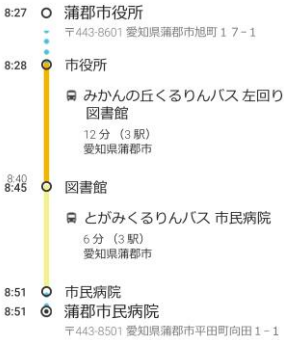


6）形原地区支線バスの停留所追加

- 住民要望を受けた地区協議会の検討により令和 6 年 4 月から停留所を 1 箇所追加（ルート変更なし）
- 1 人／日程度の利用あり、設置の効果が出ている。

支線バス（継続実施）

● 地区支線バスのGTFS-JP（オープンデータ化）



料金: 200 円
切符などの情報
愛知県蒲郡市: 0533-66-1156
ルートおよびその他の情報は参考情報としてご利用ください。これらの情報は、道路状況や工事、天候等の影響により実際の状況とは異なる場合があります。移動時は実際の標識や案内板等に確認ください。

形原・東部・西部・三谷・大塚・西浦地区について運行開始に合わせ対応

● 車体・バス停への広告



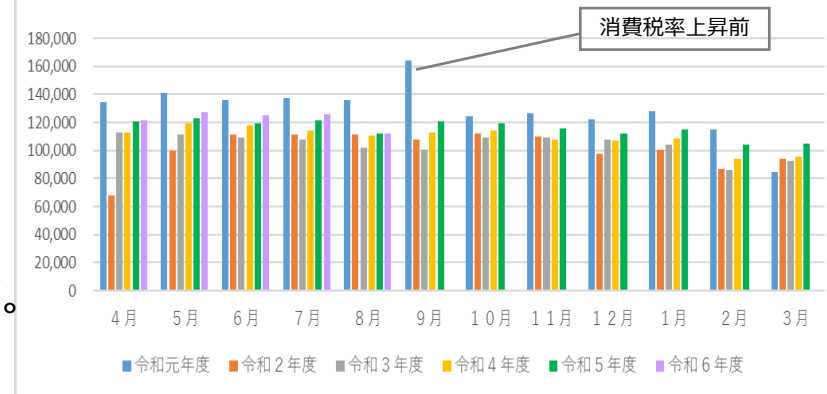
3.【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察

■市の交通ネットワーク全体の評価【鉄道（名鉄蒲郡線）】

応援団ロゴマーク▶



名鉄蒲郡線の月別利用実績推移

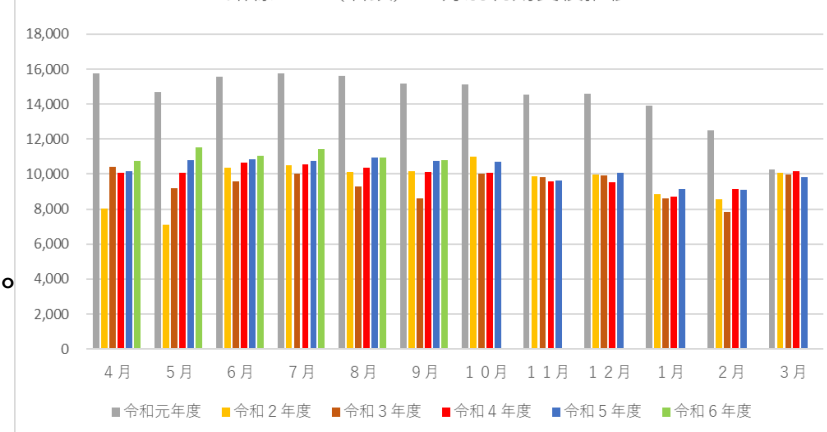


- 将来目標：2025年時点での利用者数 = 155万人/年
- 実績：R4年度 = 1,341千人（前年度比+4.9%）
R5年度 = 1,389千人 **目標未達成**（前年度比+5.7%）
- ・コロナ禍以降回復が続いているが、9割程度に留まり、目標としたコロナ前の数字には届いていない。全線でも同様の傾向で、コロナ前の水準には至らず。
- ・通勤利用は働き方の多様化の影響が考えられるが、通学利用も回復が鈍く、全線の状況を下回っている。

■市の交通ネットワーク全体の評価【路線バス】

- 将来目標：2025年時点での総利用者数 = 16万人/年
- 実績：R4年度 = 119,017人（前年度比+5.0%）
R5年度 = 122,727人 **目標未達成**（前年度比+3.1%）
- ・コロナ禍の利用者減少を機に減便して以降、便数に比例して利用者数も減少したままの状況となっている。コロナ収束後はわずかずつだが増加傾向が続く。
- ・丸山系統は、前年度割れが続いたが、R6年度は増加に転じている。
- ・市中心部での利用がほとんどで、本数の限られる区間の利用は少ない。

路線バス（名鉄）の月別利用実績推移

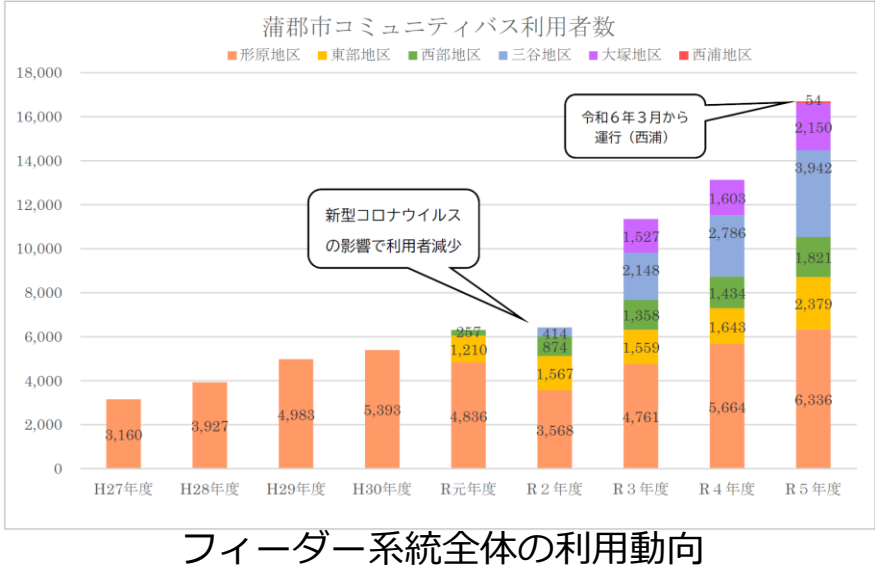


■ ネットワークに接続する「フィーダー系統の評価」

※フィーダー補助対象外

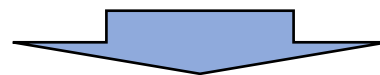
路線	年間利用者数			収支率		
	令和6年度 (目標)	令和6年度 (R5/10~R6/9実績)	達成状況	将来目標 (2025年時点)	令和5年度 (R5/4~R6/3実績)	達成状況
形原地区支線バス	5,700人	6,480人 ↑	達成	10%以上	11.7% ↑	達成
東部地区支線バス	1,950人	2,802人 ↑	達成	10%以上	5.5% ↑	未達成
西部地区支線バス	1,700人	1,800人 ↑	達成	10%以上	4.5% ↓	未達成
三谷地区支線バス	3,300人	3,833人 ↑	達成	10%以上	7.6% ↓	未達成
大塚地区支線バス	1,900人	2,557人 ↑	達成	10%以上	4.4% ↓	未達成
西浦地区支線バス※	700人 (9カ月で1,050人)	567人 (R6.3.23~)	未達成	10%以上	-	-

- 利用者数
- ・ R6年度は新規運行を開始した西浦地区を除き、全ての地区で前年度から増加し、すべての地区で目標を達成した。週4日運行化による利便性向上が好影響を与えていると考えられる。西浦地区は利用が伸びず、まだ地域での浸透ができていないと思われる。
- 収支率
- ・ 収支率目標は、形原地区のみ達成、その他の地区は達成できていない。
 - ・ 運行日増加に係る費用増加のため、西部、三谷、大塚地区では利用者数は増加したが収支率は低下した。東部地区は利用者数をさらに大きく伸ばし、収支率も上昇した。平日の運行日が増え、元々利用の多い市民病院やスーパーの利用者数が伸びている。



＜自己評価から得られた課題＞

- ①鉄道＝利用者数は回復基調もコロナ禍前の水準には至らず。利用促進、誘客対応の継続が必要。
- ②路線バス＝利用者数は回復傾向にあるが、サービスを維持するためには見直しが必要。
- ③フィーダー＝地区ごとに利用者数・収支率の実績値に大きな差があるため、周知・利用促進等の地域の取組みが必要。また、収支率改善のためには広告収入等の増加が必要。
＝空白地対策として7地区目の運行協議が進んでいることから、あわせて交通網全体について周知・相互利用のPRを強化が必要。



＜今後の取り組み＞

- ①鉄道の対応
 - ・【通年】市民まるごと赤い電車応援団等による利用促進活動を継続実施。
 - ・【令和7年度中】事業者・関係団体と協働してイベントを通じた利用PRを推進。運行継続協議。
- ②路線バスの対応
 - ・【通年】事業者と協力し、利用方法の周知などバス利用促進PRに取り組む。
 - ・【令和7年度中】サービスの維持を目指し、交通ネットワークの見直しの検討を行う。
- ③フィーダー系統の対応
 - ・【通年】6地区でのモニタリング・PDCAの実施による適正運行の継続。
 - ・【令和7年度中】利用の低い地区をはじめ、回覧板など地域に密着した情報発信により一層の周知を図っていくとともに、地域における利用促進及び広告収入獲得の取組み強化を進める。
 - ・【令和7年度中】塩津地区での新規事業化協議を進める。
 - ・【令和7年度中】交通ネットワークの見直し検討にあたり、路線バスとあわせて適宜協議を行う。

★令和7年度は、現行の蒲都市地域公共交通計画の最終年度のため、計画更新に着手する。

5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況

直近の二次評価結果 (令和6年3月)	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
＜令和6年3月21日付191号通知＞ ○評価できる取組 ・これまで実施していた「夏休み小学生50円バス」に加えて、謎解きゲームを実施し、東三河地域の自治体と連携してバス利用促進を行ったことを評価します。 ・西浦地区の交通空白地の解消に向け、鉄道駅との接続や形原地区支線バスの接続も考慮し、関係事業者と綿密に調整の上、路線案、ダイヤ案にかかる協議を行ったことを評価します。 ・地域支え合い座談会のバス体験乗車・話し合いを機に、地区の社会福祉法人がベンチを作成・寄贈し、病院が設置・管理するという地域主体での待合環境の改善を図る取組が実施されたことを評価します。 ○期待する取組 ・地域内フィーダー系統において1運行あたりの輸送量が2人未満の系統に関して、地域の住民と意見交換をおこない、利用ニーズの深掘りや周知、利用促進に向けた対策が行われることを期待します。 ・市内の鉄道や路線バス等について、更なる利用者数の回復や新規利用者の創出に向け、関係者と連携し、公共交通ネットワークとしての乗り継ぎ利用も含めた利用促進等に係る検討や取組が進められることを期待します。 ・令和6年度に予定している西浦地区支線バスについて、利用状況を継続的に把握し、PDCAサイクルの下、利便性と持続可能性の向上につながるような取組が行われることを期待します。 ・待合環境の向上は、乗り継ぎ抵抗の緩和にとって重要であるため、好事例のPR等を図りながら、引き続き、地域との協働・共創による利用環境の整備が進むことを期待します。	○広域連携 ・「夏休み小学生50円バス」等の東三河地域の関係者との連携事業を継続実施している ○利用の少ないフィーダー系統の対策 ・各地区協議会を継続的に開催し、実績や意見を共有した。会議では、路線の延長や停留所の新設意見が多く、地域での利用促進の取組みがなかなか進まない状況にある。まずは新規利用者を増やすためにも周知を地域の住民と進めていく。 ・西浦地区支線バスについては、利用が伸びず、周知不足であるとして、地区協議会で回覧板での周知・意見聴取を実施した。 ○路線バスに係る取組 ・出前講座として、作成した公共交通マップを活用し、支線バスとの使い分けなどに触れて乗り方講座を実施した。 ・公共交通ネットワーク再編検討調査を実施、次期計画の更新に向けてネットワークの見直し検討などを内部的に進めた。 ○名鉄西尾・蒲郡線に係る取組み ・公共交通の拠点とすべく、西浦駅に待合所を新設した。 ・事業者及び西尾市とともに各種利用促進事業を行い、新規利用者の創出にも取り組んだ。	■全体：市交通会議でのPDCA ・期間満了を迎える交通計画の評価を行い、更新に向けた協議を行う。 ○路線バスに係る取組 ・サービスの維持を目指し、交通ネットワークの見直しの検討を行う。 ○支線バス（交通空白地対応）の取組 ・地区協議会で支線バス事業のモニタリングを継続実施し、利用促進のため、地域に密着した情報発信を進めるとともに、広告収入の獲得強化を進める。 ・塩津地区での新規事業化及びその周知に合わせて既存路線やバスネットワークの強化をPRし、利用促進に繋げる。 ○名鉄西尾・蒲郡線の活動 ・運行継続協議 ・関係者との連携事業を継続し、新規イベントの創出など沿線の魅力向上、利用促進を進める。

直近の二次評価結果 (令和5年3月) 調査事業・計画策定	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<令和5年3月10日付151号通知> ○評価できる取組 ・「夏休み小学生50円バス」や「バス整理券ラリー&歴史謎解きゲーム」、「夏休み路線バス探検キャラバン」などを実施され、東三河地域の関係者が連携して継続的にバス利用促進に取り組まれていることを大変評価します。 ・名鉄西尾・蒲郡線や市内路線バスの利用促進イベントやPR活動を積極的に実施されたこと確認しました。 ・各地区ごとの協議会で主体的に利用促進・事業改善を検討し、運行日の増加に結び付けたこと等を評価します。 ○期待する取組 ・西浦地区においては、令和4年度に地区協議会が立ち上がり、今後の地域運行について協議が進められていることから、地域の移動ニーズを適切に検証し、既存公共交通と調和の取れた利便性の高い運行を目指すことを期待します。 ・名鉄西尾・蒲郡線の存続活動や支線バスに係る地元協議会の取り組み等の市民による積極的な公共交通の運行維持及び利用促進活動を引き続き積極的に推進することを期待します。 ・支線バスの運行について利用実態、目標、評価について地域と共有しながら進め、利用者数や収支率など達成可能性、結果の値と評価について各地域の実態に即して行われることを強く期待します。また、支線バスの乗継ぎ利便について確認を進められることを期待します。	○地域公共交通計画に基づく事業推進 令和3年6月に策定した交通計画に基づき事業推進を図る。計画に定めたPDCAを実施し、適切な進行管理を行う。 ○広域連携 東三河地域の関係者との連携事業を継続実施している。 ○名鉄西尾・蒲郡線 R5年度も「赤い電車に乗って歩こう!ぶらりんウォーク」、「復刻塗装イベント」などの利用促進活動を継続して実施。 ○支線バスの取組 支線バスの各地区の協議会を開催し、停留所別利用実績を共有し、利用促進・事業改善の検討を地域主導で行っている。当該検討を法定協議会にて確認・連携し、事業運営を進める。 ○交通空白地対策 西浦地区での事業計画策定において路線バス事業者と調整を行い調和のとれた計画案を策定し、交通会議で審議した。 塩津地区では、勉強会を開催し、地域のニーズと地区協議会の設置意向を確認し、カバーエリアの拡大を進めている。 ○バス利用促進対策 公共交通マップ(R5/4版)を作成・配布し、支線バス・路線バスの使い分けや乗継利用の周知に活用する。バス展示PRや乗り方教室等地道な周知活動を継続。	■全体：市交通会議でのPDCA 左記の事業評価を、当該資料を用いて市交通会議で確認する。また、交通計画で盛り込んだPDCAを行う。 ○名鉄西尾・蒲郡線の活動 市民まると赤い電車応援団や事業者等と連携し、名鉄を活用したイベント創出などの利用促進活動を継続して実施していく。 ○路線バスの利用改善策 便数・利用者数の少ない系統をはじめ、市内交通ネットワークの見直し検討協議を進めたい。 ○支線バスの取組 地区協議会・連携協議会等で支線バス事業のモニタリングを実施し、利用促進活動や利便性向上のための路線の見直し等の検討を進める。 ○交通空白地対応 西浦地区での新規事業化、塩津地区での協議組織の組成、運行計画策定を進める。 ○資源の総動員化 ラグーナシャトルバスの市民利用等、移動サービスの総動員化を検討する。

<PDCAの進め方>

・地域公共交通計画の進行管理は、計画期間の5カ年を通してPDCAを行う。

・各年度は、地域公共交通会議において各年度事業の計画を設定し、事業の進捗状況と計画の数値目標等(利用者数・カバー率)を通して、計画の進捗を評価する。

<協議会の開催状況>

- ・年間3回のペースで開催。
- ・交通計画を策定、年度事業の協議、事業進捗を評価・確認を進めている。



回数（実施日）	進捗管理に関する協議事項	実施内容
40回（R5/12/21）	・補助金の自己評価 ・西浦地区支線バスの運行開始 ・形原地区支線バスの停留所の新設	・中部様式等の自己評価の協議。 ・支線バスの新規事業化、停留所見直し等の協議。
41回（R6/3/27）	・R5確保維持改善事業の二次評価結果 ・地域公共交通計画の一部見直し ・R6事業計画、予算案の協議	R5二次評価結果の共有。 R6年度の事業計画の協議。
42回（R6/6/26）	・交通計画の事業進捗の確認 ・公共交通ネットワーク再編検討調査報告 ・R 7 生活交通確保維持改善事業計画	交通計画の進捗状況の評価を実施。 公共交通ネットワーク全体の検討実施。 R7補助事業計画の協議。